

平成27年度

入学試験問題

(40分)

国 語

(アカデミーコース)

(特進文理国際コース)

学校法人 成美学園

福知山成美高等学校

受験上の注意

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 試験中に問題冊子および解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
- 問題の答えは、ていねいな字で書きなさい。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数については、句読点、「」なども一字に数えます。)

個人的印象だが、ネット上で匿名発言の劣化がさらに進んでいるように見える。攻撃的なコメントがいつそう断定的になり、かつ非論理的になり、口調が暴力的になってきている。

(a) マスメディアが言論の場をジツコウ支配していた時代があった。読売新聞一四〇〇万部、朝日新聞八〇〇万部、「紅白歌合戦」の視聴率が八〇%だった時代の話である。その頃の日本人は子どもも大人も、男も女も、知識人も労働者も、「だいたい同じような情報」を共有することができた。政治的意見にしても、全国紙の社説のどれかに「自分といちばん近いもの」を探し出して、とりあえずそれに同調することができた。

「国論を二分する」というような劇的な国民的亀裂は六〇年安保からあととは見ることができない。国民のほとんどは、朝日から産経まで、どれかの新聞の社説を「口真似する」というかたちで自分の意見を表明することができた。「情報のデモクラシー」の時代だった。

(b)、七〇年代から情報の「層化」が始まる。

最初に「サブカルチャー系情報」がマスメディアから解離した。

全国的にはまずケイサイされることのない種類のトリヴイアルな情報が、そういうものを選択的に求める若者「層」に向けて発信され、それがやがてビッグビジネスになった。「異物が混在する」時代が終わり、「異物が分離する」時代になったのである。

たしかに、筒井康隆の新作を読むつもりで買った月刊誌に谷崎潤一郎の身边雑記がケイサイされていたら、「こんなのオレ読む気がないのに、その分について金出すのもつたいない」と思う読者が出てきても仕方がない。

そうして、メディアの百家争鳴百花繚乱状態が始まった。

そのときも、「別に、これでいいじゃん」と私は思っていた。みんなも「これでいいのだ」と言っていた。それによって、社会集団ごとにアクセスする情報の「ソース」が分離するようになってきた。国民全体が共有できる「マス言論」という場がなくなった。

今の若い人はもう新聞を読まない。テレビも見ない。必要があれば、ニュース記事はネットで拾い読みし、動画はYouTubeで見る。「必要があれば」というのは、当人のまわりで「それ」が話題になっているときに、キャッチアップする「必要があれば」というこ

とである。周りで話題にならなければ、戦争があっても、テロがあっても、政権が瓦解^{がかい}しても、通貨が紙くずになっても、どこかの国が水没しても、どこかの国の原発が爆発しても、そんなことは「知らない」。

マス言論というのは、いわば「自分が知っている情報」の価値を評価するためのメタ情報^(注2)である。

マス言論の場に登録されていない情報を自分が知っていることがある。それは、とりあえず私が知っているこの情報は「国民レベルで周知される必要のない情報」だという査定がどこかでなされたということの意味している。

「国民レベルで周知される必要のない情報」には二種類ある。

「重要性が低いので、周知される必要がない情報」(例えば、「今のオレの気分」)。

もう一つは、「あまりに重大なので、それが周知されると社会チツジ^ウに壊乱的影響を及ぼす情報」(例えば、尾山台上空にUFOが飛来した)。

その二つである。

(c)、私たちは長い間のマスメディア経験を通じて、「自分は現認したが、マスメディアに報じられない情報」はとりあえず「第一のカテゴリ」に入れる訓練をうけていた(ぶつぶつ文句を言いながら、ではあるが)。

それが揺らいできた。

マスメディアの「情報査定機能」が著しく減退した(すくなくとも、「減退したと信じられている」からである)。

D マスメディアの情報査定機能が低下すると、何が起ころか。

私たちは自分の知っている情報の価値を過大評価するようになる。

私たちが知っていて、メディアが報道しない情報は、「それを知られると、社会チツジ^ウが壊乱するような情報」であるという情報評価態度が一般的になる。「第二のカテゴリ」が肥大化するのである。

今のネット上の発言に見られる一般的傾向はこれである。

自分自身が送受信している情報の価値についての、無根拠な過大評価。

自分が発信する情報の価値について、「信頼性の高い第三者」を呼び出して、それにギンミ^エと保証を依頼するという基本的なマナー

が欠落している。

ここでいう「信頼性の高い第三者」というのは実在する人間や機関のことではない。そうではなくて、「言論の自由」という原理のことである。

言論が自由に行き交う場では、そこに行き交う言論の正否や価値について適正な審判が下され、価値のある情報や知見だけが生き残り、そうではないものは消え去るという「場の審判力に対する信認」のことである。情報を受信する人々の判断力は（個別的にはどこぼがあるけれど）集合的には叡智的に機能するはずだという期待のことである。

それはさしあたりは、自分が言葉を差し出す「場」に対する敬意として示される。

根拠を示さない断定や、非論理的な推論や、内輪の隠語の濫用や、呪詛や罵倒は、それ自体に問題があるというより（問題はあがるが）、それを差し出す「場」に対する敬意の欠如ゆえに退けられねばならない。

それは「言論の自由」になじまない。

(d)、「言論の自由」とは制度ではないし、規則でもなく、「言論が行き交う場に敬意を示すことによつて、その場の威信を基礎づける」という遂行的な営みそのものことだからである。「言論の自由」は「そこにある」ものではない。私たちが身銭を切つて創り出すものである。

「日本には『言論の自由』なんかない」と言い捨てたある社会学者がいた。私はこの発言は遂行的には「言論の自由」を掘り崩し、汚すものだと思う。

「責任者出てこい。『言論の自由』を整備して、個々に持つて来い」という言葉を一億人が唱和しても、それによつて「言論の自由」が基礎づけられ、機能するということはない。だってその言葉には、「言論の自由」に対する敬意が少しも含まれていないからである。

「言論の自由」は「場に対する敬意」をジョウウにしてしか生きることができないのに。

(注1) トリヴィアル：雑学的知識に基づいた

(注2) メタ情報：「メタ」とは「高次の」という意味。メタ情報とは、ある情報が持つ高次的で付加的な情報を指す。例えば、「犬が道を走る」というのは具体的対象情報である。一方、「犬が道を走る」ことは日常の光景だ。」はメタ情報の一つである。

問1 ——— 線部(ア) (オ) のカタカナを漢字に直しなさい。(とめ・はね・はらいに注意して楷書で丁寧に書くこと。)

問2 (a) (d) にあてはまる語として最も適切なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|------|---|------|---|------|---|-----|
| ア | だから | イ | ともかく | ウ | たしかに | エ | なぜなら | オ | そして |
| カ | かつて | キ | だが | ク | つまり | ケ | および | | |

問3 (i) (v) の外来語の意味を以下の語群から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (i) コメント (ii) アクセス (iii) ソース (iv) キャッチアップ (v) カテゴリー

《語群》

- | | | | | | |
|---|--------------------|---|--------------------|---|------------|
| ア | 新聞・ラジオ・テレビなどの大衆的媒体 | イ | 先行しているものに追いつくこと | ウ | 文や文章のこと |
| エ | 求めるものに接すること | オ | ある社会の一部の人々だけの独特な文化 | カ | 部門や範囲のこと |
| キ | 論評・意見・批評 | ク | 物事の出どころ | ケ | 物の性質や品質のこと |

問4 ――線部A「ネット上での匿名発言の劣化がさらに進んでいる」とはどういうことか、最も適当なものを次の中から選び、記

号で答えなさい。

ア 匿名ユーザーの一部が、暴力的な口調を用いたり、根拠を示さない断定や非論理的な推論を行っており、さらには内輪の隠語の多用や、他人を傷つける発言をおこなっているということ。

イ 匿名ユーザーの一部が、ネットは公共の場であるという認識に欠けているため、自分で発言内容を確認することを怠り、周囲への影響を無視した場合当たりの発言を濫発していること。

ウ ネット上において、匿名ユーザーの一部が暴力的な口調で他者を攻撃するコメントを発し、非論理的に主張を展開しており、そのような状況を案じた作者が注意を喚起していること。

エ 匿名ユーザーの一部が、ネットという場で自分の考えを場の審判力に照らし合わせ、十分に検討した結果、コメントが攻撃性を帯びるなど、負の側面が出ていること。

問5 ――線部B「情報のデモクラシー」のここでの意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 全国紙の情報がどれも同じ構文で書かれ、同じ語彙を共有し、同じ論理に従うといったように、当時のマスメディアが均質な情報を国民に提供していたという意味。

イ 当時のマスメディアが、情報を独占する代償として国民に情報へのアクセスを認可しており、誰でも同じような時間をかければ、同じような質の情報にたどり着けたという意味。

ウ マスメディアが言論を支配していた時代、日本人は情報を手に入れることが誰でもほぼ同じプロセスで実行でき、誰もがほぼ同内容の情報にたどり着けたという意味。

エ 当時は誰でも全国紙の社説のどれかに自分の意見と近いものを探しだし同調することができたため、事実関係そのものは国民に平準化された状態で伝わっていたという意味。

問6 ———線部C「異物が分離する」とはどういうことか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 全国紙には載らないような独自の情報が、特定の社会階層に向けて発信されるようになったこと。

イ マス言論の中に埋もれていたトリヴィアルな情報が特定の層に支持されたことにより、メディアが活気づいたこと。

ウ 新しい情報を求める場合、社会集団ごとに情報の発信源を自由に選択できるようになったということ。

エ 情報の「層化」を若年層が促進した結果、トリヴィアルな情報がビッグビジネスになったこと。

問7 ———線部D「マスメディアの情報査定機能が低下すると、何が起こるか」について、内容を六十字以上七十字以内で記述しなさい。

問8 ———線部E「言論の自由」という原理」とはどういうことか、七十字以上八十字以内で記述しなさい。

問9 ———線部F「身銭を切つて」とはどういうことか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 言論が行き交う場に敬意を示す見返りとして、私たちがネット料金などの経済的負担を背負うということ。

イ 言論が行き交う場に敬意を示し、場の威信を基礎づけ、価値のない情報を退ける努力をすること。

ウ 言論が行き交うネット交流の場に敬意を示し、言論の自由に照らして意見の正否や価値を判断すること。

エ 言論が行き交う場に敬意を示し場の威信を基礎づけるため、遂行的にマナー違反の言動を差し控えること。

問10 本文の内容をふまえ、適切なものには○を、誤っているものには×を書きなさい。

ア 作者は、「日本には『言論の自由』なんか無い」と言った社会学者の発言を肯定的にとらえている。

イ ネット上で匿名発言をする者たちの行為は問題ではなく、むしろ意見を述べる場が未成熟であることが問題である。

ウ 現在の行き過ぎたネット発言は、マスメディアの情報査定機能が減退してきたことが遠因の一つとなっている。

エ 自分の情報に価値があるかどうか迷った時、信頼のおける人に見てもらうことが必要となる。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数については、句読点、「」なども一字に数えます。)

むかし、男ありけり。わらはより仕うまつりける君、御髪おろして給うてけり。正月にはかならずまうでけり。おほやけの宮仕へしければ、常にはえまうです。されど、もとの心うしなはでまうでけるになむありける。むかし仕うまつりし人、俗なる、禪師なる、あまたまゐり集りて、正月なればことだつとて、大御酒たまひけり。雪こぼすがごと降りて、ひねもすにやまず。みな人酔ひて、「雪に降り籠められたり」といふを題にて、歌ありけり。

とよめりければ、親王(注1)いたうあはれがり給うて、御衣脱ぎてたまへりけり。

《出典『伊勢物語』》

(注1) 君：惟喬親王を指す。後の親王も同じ人物である。

(注2) 和歌の意味は以下の通り。「いつもわが君のことを思っておりますが、公の務めがあり、私は身を二つに分けることが出来ません。今絶え間なく降る雪が、こんなに積もってここに閉じ込められるのは、むしろ私の望みになかったことなのです。」

問1 線部①②を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問2 線部(a)(b)の漢字の読みを現代仮名遣いで書きなさい。

問3 線部ア「なむ」は係助詞である。結びの語を答えなさい。

問 4

——線部①②③について、本文中の解釈に最も近いものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|------------|---|------|---|------|---|-------|---|-------------|---|--------|
| ① 「御髪おろして」 | ア | 出家して | イ | 家出して | ウ | 外出して | エ | 髪を結ぶひもをほどいて | オ | 隠居して |
| ② 「ひねもす」 | ア | ほとんど | イ | 全く | ウ | 一晩中 | エ | 一日中 | オ | 時々 |
| ③ 「あはれがり」 | ア | 感動し | イ | 悲しがり | ウ | 気の毒がり | エ | 懐かしがり | オ | 胸がふさがり |

問 5

——線部 A は「親王は」お召し物を脱いで（男に）下さった」という意味になるが、親王は何のためにこのようにしたのか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 親王のことを常に気にかけてくれている男に心打たれ、寒さをしのぐ衣を与えるため。
- イ 本当は親王と常に一緒にいたいのですという気持ちを和歌に詠んだ男に、衣をほうびとして与えるため。
- ウ 親王の盃の中に雪片が入り風流な気持ちになったところに男が絶妙な和歌を詠んだので、何かほうびを与えたくなくなったため。
- エ 親王自身、昔の仲間が集まり気持ちが高ぶったことと、お酒を飲み体がほてってきたことにより、衣を脱ぐ口実とするため。

問 6

本文の内容を正しく表しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 男は、子どもの時から仕えていた親王のもとへ現在の暦で一月になると必ず通っていた。
- イ 男は大変信仰心の厚い人柄で、親王の邸内にある神社に毎年初詣に行く習慣があった。
- ウ たくさんの人が親王のもとに集まり、お酒を飲んだが、男は酔うことなくしつかりした態度で立派な歌を詠んだ。
- エ 親王のもとへ集まり、再会をなつかしんだたくさんの来客の中には、お坊さんがいた。